

第 33 号

編集・発行

富山県障害者社会参加推進センター
〒930-0094 富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館(サンシップとやま) 3階
Tel (076) 444-0213 Fax (076) 433-4610
E-mail
fjp25520@nifty.com
ホームページ
<https://www.toyamashin.jp/>

富山県障害者社会参加 推進センターだより

障害者陶芸教室開催

今年度、コロナ禍により教室会場の三密を避けるため募集人数限定して、県西部は7月29日参加者18名、また、県東部は8月5日19名参加して開催しました。

当日は、初めての方もおられたため講師の丁寧な説明を聞いた後、花瓶や皿などの制作を行いました。今回制作した作品は、各圏域で開催される地域障害者作品展で展示されます。



一生懸命、こねています

●今後の事業計画

- (コロナ禍の中、中止や変更がありますので各団体からの事業案内で確認ください。)
- 8月26日(中止) 県東部障害者ほんわかアート教室 (サンシップとやま)
- 8月30日(中止) 県西部障害者ほんわかアート教室 (高岡ふれあい福祉センター)
- 9月4日(中止) 結婚相談事業「出会いと語らいの集い」 (婦中町やまふじぶどう園)
- 9月18日～20日 地域障害者作品展 (高岡圏域(氷見市プラファシヨッピングセンター))
- 9月25日～27日 地域障害者作品展 (新川圏域(朝日町あさひシヨッピングセンターアスカ))
- 10月1日～3日 富山県障害者絵画展(アピタ富山店)
- 10月15日～17日 地域障害者作品展 (砺波圏域(小矢部市民交流プラザ))
- 10月29日～31日 地域障害者作品展 (富山圏域(アピタ富山店))

障害者相談員 活動強化研修会開催

昨年の相談員研修会は、コロナ禍のため中止となりましたが今年7月14日～15日に婦中町いこいの村磯波風において延べ92人参加し開催しました。

初日は、「障害者福祉について～コロナ禍に生きるこ」と題し、学校法人浦山学園 富山福祉短期大学 教授 鷹西亘氏から自分の体験を通してのお話がありました。

鷹西氏は、南砺市出身で19歳の時に交通事故に遭い、頸椎を損傷、以来車いす生活となる。2年間のリハビリを経て、建設会社に就職しバリアフリー住宅の仕事に従事、働きながら、通信制大学に編入学し社会福祉士資格を取得されました。現在は、富山福祉短期大学教授(社会福祉士、精神保健福祉士)をされています。また、富山県障害者施策推進協議会の会長はじめ、多くの障害者にまつわる協議会や委員会等に所属されています。

2日目は、「なぜ生きる～蓮如上人と吉崎炎上～」と題したアニメ映画上映を相談員研修会としては初めて行い、人としてどう生きるかの一つとして大変参考になりました。上映後、参加者の方から「大変良かった」との声もありました。



分かりやすいアニメ映画



開会あいさつ「布尾会長」

身体障害者のひろば

今年度、富山県身体障害者福祉協会では、コロナ禍の下、外出自粛による会員の体力低下や認知症の発症を予防するため、施設など現地に直接出向いてコロナ感染対策の確認を行い以下の事業を実施しました。

●第31回福祉セミナー

昨年は、コロナのため中止を余儀なくされたが、今年度感染防止を行い5月18日～19日にゆとりあ越中において福祉セミナーを開催しました。

コロナ禍のため外出自粛や各種行事の中止などあり、他人とのコミュニケーション不足から認知症傾向になる方もおられ初日は、「認知症について」会員51名が参加し、富山県厚生部の扇一優希講師から富山県における認知症の状況などのお話があり



落語風景



認知症のお話

ました。
また、2日目は、「笑いは健康の特効薬」と題して富山の落語家「越中家 漫欽丹」さんの健康についてのお話などで久しぶりで笑った方もおられたとのことでした。

●第1回リハビリ教室

昨年まで長年に亘ってリハビリ教室を開催していた越中庄川荘が閉館となったため、今年度から氷見市の「ひみのはな」でお願いし、6月8日～10日に第1回リハビリ教室を開催しました。

初日は、温泉療養を主としてリラックスすると共に、2日目には、全員であいやまガーデンのバラ園などを散策するなど歩行訓練を実施し気分転換を図りました。



レストハウス前にて

●障害者

交通安全教室

6月10日、リハビリ教室最終日に、



反射材の説明と体験

交通安全教室を開催しました。富山県警察本部の萱原愛子巡查部長などは最近の高齢者の交通事故について、夜間に多く発生しているとのことで「反射材」の利用を是非してほしいとのことでした。

●第23回フライングディスク競技会

6月23日、第23回フライングディスク競技会は富山市の体育文化センターにおいて会員80名参加し開催しました。

今回も、コロナ感染防止のため昨年同様午前中に個人戦兼団体戦の1試合のみの競技会となりましたが選手の方々は、それなりに楽しんでおられました。



「的」が違いますか

●ガラス作品制作体験教室

7月8日(水)午前は東部、午後から西部の会員(総勢42名)によるガラス作品制作体験教室を開催しました。

このガラス作品制作体験教室は、今年で3回目となります。

昨年、一昨年とペーパーウェイト作りを行いました。今年是一段UPし吹きガラス作品(コップ・一輪差し・小鉢など)を思い思いに、

講師の指導を受けながら火傷をしないうよう真剣に受講されていました。



ゆっくり・ゆっくり・もつと強く

● 今後の事業予定(9月10日現在)

● 10月15日～16日 山岳歩行訓練会

(高山・新穂高ロープウェイ)

● 9月19日

富山県障害者スポーツ大会(FDの部)

(県総合運動公園)

● 9月25日

第44回ボウリング大会

(アピタ富山東ワンダーボウル)

● 10月6日 カローリング大会中止

市町村でのカローリング交流会等に補助検討

● 10月14日

障害者女性健康指導教室

(テーブルマナー教室)

(ANAクラウンプラザホテル)

● 11月4日～5日 中部ブロック研修会中止

富山県身体障害者相談員研修会に変更

(黒部峡谷トロッコ乗車体験)

(宇奈月温泉(セレネ))

● 11月9日～11日

第2回ハビリティ教室(ひみのはな)

● 11月日未定

障害者女性健康指導教室(料理教室)

(大沢野大久保ふれあいセンター)

● 12月4日

第34回富山県身体障害者福祉大会

(大沢野生涯学習センター)

● 12月日未定

障害者女性健康指導教室

(フラワーアレンジメント教室)

(サンシップとやま)

※今後の事業については、コロナ禍の状況により中止や延期となる場合がありますのでご理解賜りますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

一般社団法人富山県身体障害者福祉協会

富山市安住町5-21サンシップとやま3階

TEL (076) 432-6331

FAX (076) 433-4610

精神障害者のひろば

怒りのコントロール方法

コロナ禍が止まるところを知らず、私たちの日常生活は自粛のストレスで以前にも増してイライラしやすくなっています。

このような環境下において去る12月のはじめ、日本アンガーマネジメント協会の澤田慎一郎氏を講師にお迎えし、「イライラよりイキイキを増やして生きよう」という演題でアンガーマネジメント講習を開催しました(受講生は約25名)。

講習の要点を簡単に紹介しましょう。アンガーマネジメントとは、怒りと上手に向き合うための心理トレーニングの方法のことを指します。

怒ったあとの後悔は誰でも経験することですが、だからといって怒りを我慢しすぎると溜まった不満が爆発するかも知れません。逆に、感情に任せた振る舞いは、家庭内外での対人関係において亀裂や問題を引き起こしかねません。家庭内暴力やパワハラなど、「怒り」が原因のトラブルも社会問題になっています。従って、怒りをコントロールする方法や上手な怒り方を身に付けておくことが大切になってきます。

〈怒りをコントロールする方法〉

1..怒りの衝動に駆られたときは、怒りを発する前に6秒間我慢するという「6秒間ルール」が有効であるといわれています。

衝動的な怒りはアドレナリンの生成に起因しているが、一旦生成したアドレナリンは6秒間我慢する間にほぼ消失するので、怒りが収まって冷静さを取り戻すことができるということです。

2:「〇〇すべき」という思考を捨てる。

怒りの根本的な原因となつていているのは、他者との価値観の違いにあります。日常的に怒ることが多い人は、「すべき」という思考を強く持っていることが多く、自身の思考と他者の思考にずれがあると感情的になつてしま

います。
3:どうにもならないことは「仕方ない」と割り切る。

完璧主義的な考え方も怒りを生じさせる原因となることが多い。この場合、他人は自分とは違うことを理解し、他人の言動については例え気に入らない部分があつたとしても仕方ないと割り切る姿勢を持つことが大切であるということです。

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人

富山県精神保健福祉家族連合会

事務局 〒930-0085

富山市丸の内2-3-8 桜井ビル3F

TEL・FAX (076) 46117110



知的障害者のひろば

富山県手をつなぐ育成会

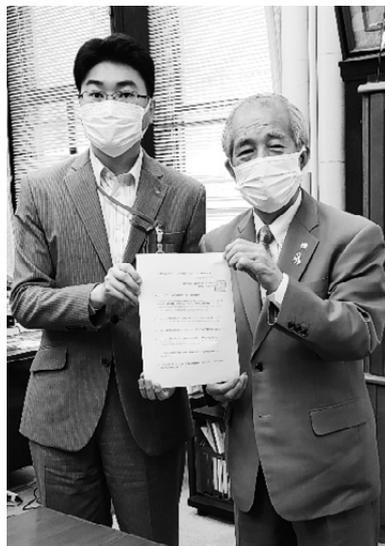
◆新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急要望

4月、5月と県内の障害者支援施設や通所施設でクラスターが発生したことから、5月31日(月)、四方理事長から木内富山県厚生部長に対し、緊急要望書を提出しました。

特に、施設における職員と利用者に対する集団接種が急務であることを訴え、県と市町村との調整を速やかに行い、ワクチン接種体制を強化するよう要望しました。

あわせて、在宅の知的障害者や特別支援学校教員への早期接種、接種時における障害特性に配慮した適切な支援等についても要望しました。

その後、県内では6月から、感染リスクの高い障害者入所施設や高齢者施設で、巡回接



緊急要望の提出

種や一斉PCR検査が開始されることになり、各市町村によって対応は異なるものの、ワクチン接種が進みつつあります。

保護者や家族、また、障害のある本人が感染した場合、どのように対応するかという不安もまだまだ強く、親子で安心して過ごせる療養施設等の設置を望む声もありますので、今後も引き続き、支援体制の強化を働きかけていきたいと思います。

◆親から地域社会へのバトンタッチ

「松の木プロジェクト」親向け、本人向け冊子が完成しました

富山市手をつなぐ育成会が富山市からの委託を受け、県育成会も協力して進めてきた「親亡き後研究事業」。3年間にわたり、各エリアの育成会で学習会などを展開してきましたが、この度、その成果をまとめた「親向けのハンドブック」と「本人向けリーフレット」が完成しました。

学習会の過程で、親の不安を「住まい、引継ぎ(後見人)、安全(地域)」の3つに整理すると共に、親亡き後の問題は「本人の自立」を考慮することでもあると気づいたことから、親向けと、本人向けの冊子は「対」の形で作成し、親子で話し合いながら取り組めるように工夫しました。

また、冊子には「知っておきたいこと、考えたいこと」と「始めたいこと」がまとめられています。

ますが、あえて「結論」は出さず、自分で、親子で、仲間同士で一緒に取り組んでいく「材料」としていきます。

3月6日(土)、この事業のまとめのセミナーが富山市育成会主催で開催され、冊子がお披露目されました。後日、富山新聞、北日本新聞等で冊子の紹介をしていただいたことから、セミナー参加者は勿論、関心を持たれた方や、様々な団体の関係者から大変多くのお問合せがありました。

「親亡き後」に不安はいっぱい。でも、何からどうやっていったらいいのかわからない、そのような方々に広く関心を持っていただいたようですが、この冊子は読むだけでは、十分な効果を生みません。

他の団体では、この冊子制作の中心となった細川瑞子さんを講師に、研修会を開催するなど、既に積極的に冊子を活用していただいた例があります。

育成会では今後、各エリアや支部、保護者会などでの学習会の輪を広げ、この冊子を活用していく予定です。仲間同士での学習会を重ね、準備を始め、行動に移すことで不安が解消され、本人の自立と、親子の安心へつながっていくことを願っています。

〈松の木プロジェクト〉

常緑であり、長寿であることなどから、縁起の良い木として庭木に好まれていた松。

松の枝が長く横に伸びて、しっかりとした支柱によって支えられている「門かぶりの松」を、私たちのシンボルとして取り上げることになりました。

親子の「松の木」が分かれて、子どもの「松」は親だけでなく、様々な支援や地域の支えによって、安全に育ち、豊かな枝葉を茂らせていく。その様子を「親から地域へのバトンタッチ」に相應しいシンボルとし、この活動を「松の木プロジェクト」と称しています。

【お問い合わせ先】

一般社団法人 富山県手をつなぐ育成会

〒930-0094

富山市安住町5番21号

TEL (076) 441-7161

メール toikusei@minos.ocn.ne.jp

ホームページ http://toyamaikusei.jp/

フェイスブック

<https://www.facebook.com/toyamaikuseikai/>

視覚障害者のひろば

社会福祉法人

富山県視覚障害者協会だより

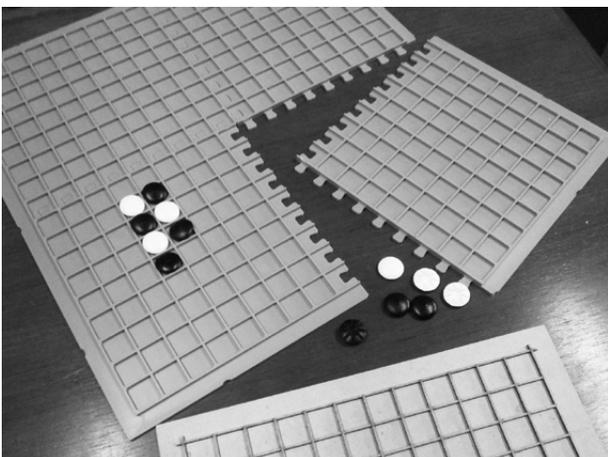
● オンラインで囲碁を楽しむ視覚障害者たち

当協会には囲碁教室があり、平成26年4月に「とやまライト囲碁教室」として発足、その後「B I C 富山 (Blind Igo Circle 富山)」に名称変更されました。

囲碁は老若男女を問わず誰でも気軽に楽しむことができ、挨拶で始まって挨拶で終わる礼儀を重んじた頭のスポーツです。碁盤と碁石がずれないように、また手で触って白石と黒石の区別ができるように工夫されているので、弱視はもちろん全盲でも対局を楽しむことができます。

昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大以降、三密を避け消毒やフェースシールド等の感染予防対策のほか、携帯電話による電話対局をしながら続けてきましたが、何より残念だったのは、大きな活動目標だった全国大会が中止になったことでした。

そんな中でお誘いくださったのが、「オンライン囲碁サークル」の方でした。このサークル



には、全国各地から約20名の視覚障害者が参加しており、週2回、オンラインで対局が行われています。オンライン対局では、自分も相手もそれぞれに碁盤を用意し、石を打つ盤面の位置を「3の四」「7の六」のように数字で相手に伝えます。聞いた相手は、伝えてきた相手の石も自分の碁盤に置くという流れです。

また、最近では、東京の方から携帯型碁盤を寄贈いただき、四つに折って持ち運べることから、晴眼者を含めて対局相手の範囲も広がりました。

「BIC富山」は、現在女性も含めて8名の会員で、脳トレにもなるこの囲碁の仲間を募っています。お問い合わせは、当協会事務局まで。

●令和3年度後期の

主な事業計画をお知らせします。

●中止

第45回視覚障害者文化祭・福祉機器展

●10月3日

第47回富山県視覚障害者球技大会

グラウンドソフトボール、

サウンドテーブルテニス

●10月30・31日 新潟県

第30回北信越サウンドテーブルテニス大会

●11月14日

三療研修会

●11月20・21日 福井県

日視連北信越ブロック大会

●12月5日

更生相談会・結婚相談室・意見交換会

以上の事業の他、文化・スポーツ・家庭生活を支援する各種教室、点字・パソコン・歩行指導、点訳・音訳ボランティア養成・研修事業等、視覚障害者の社会参加促進活動を通年で実施しています。

【お問い合わせ先】

〒930-0077

富山市磯部町3丁目8番8号

TEL (076) 425-6761

(福)富山県視覚障害者協会事務局まで

聴覚障害者のひろば

●2年ぶりに第32回富山県ろうあ者大会を開催しました。

コロナ禍の中、7月4日(日)午後から2年ぶりに高岡市ふれあい福祉センターで開催しました。定員を半分に抑えていましたが、入場券は159枚売れ、初めての手法として2階の集会室にテーブルをつないで、プロジェクターで中継しました。

来賓の挨拶では県知事代理障害福祉課長、高橋正樹高岡市長、田畑裕明衆議院議員から冒頭に手話も交えての挨拶をしていただきました。



記念講演は『手話の魅力〜手話語りの魅力を堪能〜』をテーマにNHK「みんなの手話」に出演されている那須善子さんをお招きしました。家族みんながろう者の家庭でのコミュニケーションケーションの様子、ろう劇団での経験、育児での絵本の手話語り、そして手話の魅力を出演されている「みんなの手話」と同じように、いやそれ以上にエネルギーッシュに語っていただきました。手話で聞こえない我が子に絵本の読



み聞かせをする時は、文字をそのまま手話にするのではなく、場面や気持ちに合った手話表現を工夫し、子供達の興味を引くことが肝心だという事が一番印象に残りました。

講演はとても楽しく時間が経つのが早く、もっと聞きたい！と思いました。質疑応答では、共演されている三宅健さんとのエピソードやご自身の衣装の苦労話も聞く事ができ、改めてとても凄い方に講演していただけたと実感しました。

●今年度も「出前手話講座」を

申し込みでください。
（富山県手話普及活動促進事業ご利用のお知らせ）

富山県手話言語条例にもとづく富山県手話普及活動促進事業が今年度も富山県聴覚障害者協会に委託されています。県内の企業、社会福祉法人や社団法人、NPO法人、自治会、PTAなどの団体からの依頼に応じ、ろう者と交流し手話を学んで頂くための「出前手話講座」を開催します。申込みのための主な条件は、
※手話講座にかかる報償費、旅費、需用費、
※手話講座にかかる報償費、旅費、需用費、
役務費、使用料及び賃借料とします。

※活動1回当たり15,000円を補助上限額とし、1団体等につき5回までを年度の上限とします。開催時間は1回につき1時間以上3時間までとします。標準は2時間です。

申込書を本協会HPにアップしてありますのでお使い下さい。申請は、希望する日の一ヶ月以上前までに申し込んでください。くわしくは本会までお問い合わせ下さい。

●難聴の方へ。

要約筆記者派遣事業をご利用ください。

難聴、中途失聴者の方は、要約筆記者派遣事業が利用できます。身体障害者手帳があれば、無料で派遣できます。問合せ、依頼は本会まで。ぜひご利用下さい。

【お問い合わせ先】

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

富山市木場町2-21

TEL (076) 441-7331

FAX (076) 441-7305

メール info@tonichokyo.or.jp

ホームページ

<http://www.tonichokyo.or.jp/index.html>



【お 知 ら せ】

車椅子補助用具 JNRIKI（じんりき） 紹介

富山県身体障害者協会では、メーカーから車イス補助用具「JINRIKI」（じんりき）の取り扱い協会の承認をいただきました。JNRIKIを利用すると前輪が浮くため、まるで人力車と同じく坂道はもちろん少々の段差や砂利道でもスムーズに移動ができ、介助者の負担も少ないと共に乗っている方も振動が少なく大変好評を得ています。（標準販売価格 71,200円）

今お使いの車いす・備蓄されている車いすに簡単装着で **驚くほどスムーズな移動**

Jinriki Quick II

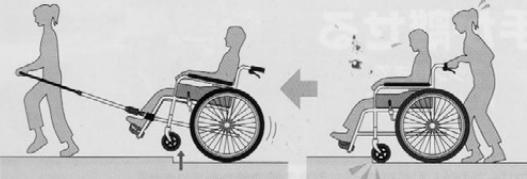
じんりきクイックツー

**もっと迅速に
もっと気軽に**

超便利
「J」エイマルチバック付
詳しくは裏面をご覧ください。

浮かせて引く という新しい発想。

「Jinriki Quick II」は、車いすにけん引レバーを装着し、人力車のように「前輪を浮かせて引く」ための補助装置です。坂道・段差・ぬかるみ・がれき等の不整地で車いすを「押して」移動するのは相当の腕力が必要ですが、「Jinriki Quick II」を使えば、テコの原理で体重と体全体の力を利用して、負荷が軽くなりスムーズな移動が可能になります。災害非難時の緊急移動はもちろん、アウトドアでも活躍し、より心豊かな暮らしをサポートします。また、特例補装具・日常生活用具として申請可能ですので、自己負担が大幅に軽減できます。



「テコの原理」で案に前輪が浮き、車いすを前から「引く」ので簡単に段差を通過できる。

災害時の緊急避難に備える。
気軽にレジャーを楽しむ。
介護負担を軽減する。




防災安全協会 防災製品等推奨品証 2014年 取得
日本リハビリテーション工学協会 福祉機器コンテスト2014 最優秀賞 受賞
日本発明振興協会 平成25年度 発明大賞 受賞
ワールドビジネスサテライト・トレンドたまご(テレビ東京) 2013年 トレたま年間大賞 受賞

www.jinriki.asia/

【JINRIKI 使用例】



☆県協会
「あいやまガーデン散策」



☆大沢野協会
「あいやまガーデン散策」
雨天でした



☆富山市協会
大岩山「日石寺見学」

※障害者はもちろん高齢者の方でも
車椅子を利用される方は、是非ご検討ください

【問い合わせ先】
一般社団法人富山県身体障害者福祉協会
富山市安住町5-21 サンシップとやま3階
TEL 076-432-6331 (JINRIKI 担当 西野)
FAX 076-433-4610